京城新聞

●殖民地の貿易策（二）

法學士　山内正瞭

而して右の如き主張に對し、更らに有力なる助勢を與へたるは外國の採れる政策如何に依り、自國の產業が不利益なる地位に陷ゐりたる實例なりとす、其の一は即ち英國に於て之れを見るを得べく、同國は世人も知れる如く、夙に自由貿易主義を標榜したるものなりしが、最近の植民地の貿易に對し或る制限を加ふるの止むを得ざるに至りたるは畢竟同國が平生商工業を以つて其の經濟の基礎となし且つ他の歐洲大陸諸國の如く自國に於て其の食料品及び原料品を得るの便利を缺けるが爲めに外ならずして、之れに依りて同國は、[illegible]は其の殖民地にありて確實なる消費者を求め得べきが故、外國經濟界の爲め支配せらるゝが如きことをも無くして濟む可きなり。

然れども、我が國が臺灣貿易に對して採りたる政策の變遷は、克く理論の事實なるを證明したるものと謂ふべく、即ち同島領有當時、同島の外國貿易、殊に對岸支那貿易の如きは、其の關稅低率なりしため、頗ぶる隆盛に赴くべき傾向を現はしたるも、其の後三十二年に至り、從來の放任主義を改めて、漸やく干涉主義を採ることゝなれるより茲に一大頓挫を生じ內地との貿易は俄かに振ひ始めたる反對に、外國との貿易は寧ろ衰頽を示せしなり、尤も、此の間には多少當時に於ける同島生產品の不況なりしことも關係せざるにはあらざるべく、其の三十四年を極點として、爾來生產品の好況に赴きたるに伴れ、幾分にても頹勢を挽回し得たるが如き觀を現はせしは、之れに對する一の左券として見るべきものなれども要するに同島の外國貿易は、其の內地の干涉の爲め、永く沈滯の域を免かれ能はざるべし例へば同島に於ける砂糖及び米穀の如き往時對岸支那に向つて旺んに輸出せられたるもの、今や偏へに內地に吸收せらるゝに至り又同島輸入主要品たる織物及び海產物の如き全く內地の供給に依ることゝなれるなり、以下猶ほ項を分ちて、少しく之れを詳說すべし。

●慶尚道 農商狀況（四）

昆陽

晉州へ五里、泗川へ四里

韓人戶口城內百七十八戶、八百四十五人日本人三戶男八女一にして雜貨二金貸一戶なり

●●△作柄　本部は河東、泗川、晉州、固城等と並び稱せらるゝ此地方に於ける著名の米產地にして又水利の便あり早稻、中稻等は稍々風害を受けたるも此作付は全水田の約十分の一にも充たざれば其被害區域廣からず其他は生育概して良好にして昨年より約一割の增收を見るなるべし畑作物は其被害稍々甚しく就中綿花と四割方大豆は約三割方の減收なるべし要するに本年の風害は本郡は殊に甚だしく間々家屋の轉倒せるものあるを見る

●●△商況　近來米穀類價格下落の爲め出穀捗々しからず加ふるに河東郡及本郡地方は時々火賊の出沒するあり市場商人の往來稍々減じ市場頗る寂寥を極め從て一般の人氣甚だ消沈せり

●●△通貨　泗川同樣上納錢の外殆んど葉錢を使用せり

●●△人氣　目下平穩にして彼我交情良好なり

辰橋

晉州へ七里、河東へ四里、昆陽へ二里

韓人戶口百三十五戶五百餘人日本人五戶十一人男十三女三職業の主なるもの穀物二戶、菓子一戶他は雜貨商等なり

●●△作柄　河東郡は本年七月中旬に於ける大雨の爲め或一部に水害を受けたるも是等の低地は從來三年中一回は水害を豫期せるの狀況にして今年は雨量十分なりし爲め寧ろ限なく挿秧を了へ其後照り込み十分なりしかば生育甚だ良好にして全体を平均せば約一割五步位增收の見込あり畑作は風害甚だしかりしも當地方は概して畑地甚だ少く綿花の多少減收を見るべきの外特に被害の擧ぐべきものなし

●●△商況　上來記載の如く米穀類下落のため出穀捗々しからず東本郡地方は近來火賊の出沒殆んど間斷なく輸入品等の賣行良好ならず然れども今一二ヶ月後に至り新穀出荷の候に際せば市況一般に活氣を呈するなるべし

●●△通貨　極めて小部分新貨の流通あるも其大部分は葉錢を使用す

●●△人氣　當地は從來本邦人と商的關係深く從て彼我商人間の交情良好なり

●●△附記　運輸交通　穀物の輸出及諸雜貨類の輸入は每月二回の大潮を利用して主に韓舟の便に據るものとす又郵便受取所ありて三日目每に晉州を經て各地方へ發送せらる

讀者文壇

秋望

櫻州　野人

四方の田つらを、見渡せば、たり穗の稻は、大御代の榮をみせて、豐けくも、黃金の波の、寄する如、打なびくなり、田る中の、賤が軒端に、賑はしく、烟りもたちて、御民らが、味酒くみて、治れる、御代を壽ぎ、秋やたのしむ、

折にふれて

旅枕たどろかされてながむれば、月はうすれて雁なきわたる、
あはれさを、とりあつめたる、秋ならむ、いつの夕にくらふべきやは
山川の五十瀬の奥の家居にもうき世に通ふ橋はありけり

五月闇（五十八）

河合柳葉

家令濟川道恭は屋敷から、歸つて夕餉を濟まし、庭園の床几に腰をかけて涼みながら、彼の大山から寄來した書面の中にあつた、不得要領の女の事を思ひ出して、何となく心懸りになるので頻に想像を廻らして居たが、不圖過ぎし頃に見た女の事を思ひ出して、何とも云へぬ一種の懸念に打たれ、覺えずブルと身顫ひした。

そして、心の中で、どうぞ惡夢の中のやうな女でなければ宜いが、と密に祈つた。

と、夫人時子は白綸の浴衣着のまゝ、團扇を片手に庭園近き椽側に來て、

「ね、貴方、町田が參りましてね、是非たゞ今目通り致したいと申して待つて居りますが、些と會つて遣りなさいませんか。」

「今頃町田が來た…。」

「大分貴方は夜でなければ在でにならない事を存じて居ますし、自分も勤めの体ですから夜でなければ都合が惡いので、それで今時分參つたのでせう。」

「では、坐敷へ通して置け今會つてやるから。」

「はい。」

と、時子が彼方へ去ると、道恭も浴衣着のまゝ床几から離れて、悠々と應接室の方へ行つた、應接室には既に町田が端然と坐に着いて待受けて居た。

濟川は室に入るさ、

「今時分何事だ…。」

云ひつゝ坐に就いた、町田は叮嚀に頭を低げて、

「どうも夜中伺ひまして相濟ませんでございます、是非れ目通り致してれ指揮を仰がなきやならない事が出來致しましたので、押して參上致しました。」

「どうも勤め惡いことでも云ふのか。」

「いゝえ、左樣な事ぢやございません、勤めの方はれ蔭樣で誠に勤め宜うございますが實は今日の各新聞を見ますると、父が危篤だから直樣歸れと申す廣告文が載つて居るのでございます勘當された私に歸れと云ふ廣告を出す程でございますから、豈夫僞りでもありますまいゆゑ、余程危篤な容体になつたのかと存じまするで、如何致したものでございませうかと、此儀を御相談に伺ひましてございます。」

「ふむ、然ふかそりや氣の毒な事だね、唯た一人の父親が危篤に瀕して居ると云ふなら如何なる事情があらうと、左や右云ふて居る場合で無い、[illegible]で斷つてもやるが、其の廣告の載つてる新聞紙を見せて、れ前からも事情を話した上で、今夜の中にも歸るが宜い、遲々して居て萬一の事があつた節は、れ前も殘念だらうが、父親は尚更殘念だ、旅費に困るだらうから旅費は私が餞別に遣る、些つと待つて居れ。」

道恭は起つて彼方に行つたが、直に入つて來て、

「サア、これをもつて今夜の中に出發が宜い。」

と、十圓紙幣二枚を與へた。

「種々御厄介をかけまして、折角旨い所へ御周旋に預りまして、直樣歸國致しますのは誠に不本意でございますが、余の事と違ひますので、惡からずご容赦を願ひます、いづれ歸國仕りました上、改めて御禮に參上致しまするでございます、シテ誠に恐縮でございまするが、此れ金子は一時拜借さして下さいますやうれ願ひ致します。」

「其金子は返すに及ばんが、這度歸つたら充分に孝養を盡して、これまでの信用を取返す事に注意するが宜い、言ひ聞かす事もあるが汽車に遲れてはならんから、早く歸つて支度をするが宜からう。」

「では、れ暇從ひましてれ暇仕ります、隨分暑さの砌でございますゆゑ、御大切に遊ばしまするやう、いづれ歸國次第御通知申上げまする。」

と、匆々辭して退いて往つた。そして九月の十日夜行列車で歸國の途に就いた。

京城新聞

都府の經營

東洋人は都府の美觀てふ觀念薄く爲に都府の經營を等閑に附するに至る、之れ治者たるもの獨り尊大を極め自己の邸宅さへ美を盡せば足れりとし國民の生活狀態如何を顧慮にせざるに起因す都府の經營殊に道路の如きは出づるに轎輿を以てするより渠等は更に之を顧せず現に漢城市内道路の如きは極て不完全にして少しく降雨あれば破壞墜落する所少からず總ての點より見るも一國の首都たる面目更になし、帝國が保護統治の上よりするも都府たるの經營をなさしめ物質的の美觀を以て韓人を感化する事は極て緊切なる事とす、首都の美觀が國民の頭腦に好感化を及ばせる事は識者の唱ふる所なり、殊に帝國が保護統治を爲すに於ても啻に制度の改善のみに止らず首都經營の如き着目すべき事を爲すは外人をして我統監政治の良否を鑑定せしむるに尤も効力あるべし、

漢城市の現況を見るに首都たる面目更になきのみならず、道路の如きは甚だ粗惡にして工事の急を要するなり、頃者南大門附近の如きは立派に修理されたるも唯僅々たる一部のみ、恰も邸宅荒れて玄關のみ美を飾れるの觀なくんばあらず、近來市内の所々に於て道路の改修工事をなされ居るも只夫れ河川の砂礫を撒布するに過ぎず一度降雨あれば直に舊態に復するなり、或者は此工事を目して道路破壞と稱し、或者は地方の暴徒猖獗して交通を絶てるの際野菜を栽培する畑を造るなりと嘲罵するに至る、斯る粗雜なる改修工事は實際何等の効もなく只通行を妨害するに止るのみ、等しく費用を投するならば何故に完全なる工事を施さゞるか如何に當局者が其事に迂なりとも斯る拙陋なる修理が何等の効なきを知らざる筈なし、實際知らずして之を爲すと云はゞ其迂濶なる寧ろ憫笑するに堪へず

若し夫れ眞面目に改修工事をなすに於ては素より多額の費用を要するは論を俟たず其財源は何れに求むべきかは余輩の容喙する限りに非ざれども、彼の博覽會開設の爲に投ずる四十余萬圓の如きは即ち適當の財源ならむ、博覽會の如き實際効力僅少なることに斯る多額の費用を投ずるよりも此必要缺く可らざる首都の經營に投ずること最も緩急の機宜を得たるものならむ、博覽會の如きは多少首都の面目を存するに至りて後ち開設するこそ至當なれ、而して日本興業銀行より二千萬圓の借入金も成立したる模樣なれば此一部を割きて首都經營の費に宛てるも亦可ならん、總ての事に就て其緩急を誤らざる樣に注意するは爲政者の職責なり、漢城市の經營は我統監政治のバロメートルと云ふも可なり、列國の視聽は之れに依り帝國の經營をトせん乎敢て當局者の省慮を促す

●漢城便り

▲米國大統領の選擧にはオハイオのタフト氏勝利を制しデモクラツトのブライヤン氏敗者と相成申候御承知の如く米國地方政界に於ける共和、合衆兩黨の勢力は相伯仲致居候只最も人口稠密富力冠絶せる東部の二三州に於ては合衆黨は共和に劣り申候ブライヤン氏の人物如何に偉大なりとも誰も未だ中部の廣原より推されて大統領たることは米國今日の實情の許さゞるところに有之候

▲記者はタフト、ブライヤンの兩氏と曾て或問題に就て意見を交換したる事あるがタ氏がドコマでも帝國主義者にてブ氏がドコまでも非帝國主義者たることを諒解致候米[illegible]然忠實なることに候我政治家の韓國問題に對してさへ態度の曖昧なるとは大に相違有之候

▲一昨日は南大門改新工事の落成式に臨み坂出技師の工事報告及び同門に關する歷史談を聞くの愉快を得候坂出氏曰く崇禮門は高麗朝を滅したる李朝の大宗皇帝が今より五百年前に建造したるものにて高麗末年の建築術を窺ふに最も良き標本なりと又曰く文錄の役加藤肥州は此門より京城に進入せりと

▲兎に角南大門の改新工事乃ち城壁の取拂新道路の開通石垣の新築並に電燈植込等は交通の點よりまた美觀の點より僅かに成效と可申者と存候京城市街の玄關は之にて相整申候今後早速手を附くべきは應接間奥の院等の整理に有之候

▲本工事を斷行するの責任を採りたるは長谷川大將にて次に大將の案を具体的になしたるは木内參與官なりとの事に有之候愈實際の仕事となりては三浦理事官坂出技師及び柳正秀等共力して今日の如く仕遂げたるものゝ由に候記者は長谷川大將以下の關係諸氏に對し此機會を以て感謝の意を表し申候

▲南大門と同樣なる工事を東大門に施して之を保存し其他の諸小門は可成取拂つて交通の不便を除くべしと三浦理事官は希望として述べられ候が此希望には韓皇始め何人も異存なかるべしと被存候記者は此希望の一日も早く現實せられんことを切に相望み申候

▲元山の民團に於ては紛擾なしとは御用紙の傳ふるところに候が而かも事實は事實なるを如何せん[illegible]は事實の隱蔽よりは善後の事に[illegible]んことを其筋の御方に相斷め申候

▲二股官吏舍宅の計畫は後仕舞なりとの内規有之候由[illegible]ふに後仕舞よりは月仕舞に致され度方韓人の誤解を避くるに便ならんと被存候

伯林電報

▲獨逸軍艦の參列

獨逸は日本の招待に應じ觀艦式に參列する爲め巡洋艦ライプチヒ號を神戸に派遣せり（七日發東京經由）

東京電報

▲伊藤公の演說

日韓同志會は昨夜伊藤公を招待し中村彌六の挨拶に次で伊藤統監は三十八年戰後余は大命を奉じて渡韓し日韓協約を締結せり爾後余は韓國の開發を旨として毀譽褒貶に關係せずと述べ一同歡を盡くして散會せり

▲印度の大洪水

印度大洪水のため死者二万を超へ被害多大なる[illegible]

▲統監御暇乞參內

伊藤統監八日出發歸任に付御暇乞のため同日參內拜謁御諚を拜し終りて茶菓を賜はる

▲香港暴動の鎮靜

香港の暴動は鎮靜し三箇中隊の軍隊は四日引揚げたり

▲日本品の好評

露都に於ける家具及び裝飾品博覽會にて日本部の出品は非常の好評を博し其の賣約の多き事場内にて第一位を占めつゝあり

▲拓殖本社開期

東洋拓殖株式會社の本社は一月開設すべく準備のため本年末より理事一名京城に赴く

▲大演習行幸

天皇陛下九日午前演習地へ行幸仰せ出さる（以上七日發）

▲招殖株の應募

東洋拓殖會社の株式應募は昨日迄に九万株に達す

▲物價の低落

十月中當地の物價は七厘八毛の低落なり

▲豫算の內示

政府は今月下旬兩院議員代表者へ豫算の內示をなすべし（以上七日發）

雜報

●拓殖株の申込

六日迄に韓國各銀行に受付けたる東洋拓殖株式會社株式の申込累計は二千百七十五株にして内日本人千四百二十三株韓人七百十二株なり

●拓殖株應募の勸誘

漢城府尹は昨日西大門外なる獨立館に市民を集めて東洋拓殖株式會社株式申込勸誘の演說をなしたるが明八日は鐘路なる商業會議所に於て同じく演說をなすべしと

●拓殖株應募數

東洋拓殖會社株式應募數は開始早々頗る好景氣にて本月二日中の申込にて四日正午迄の申込は左の如くなりと

第一 二七五、第十五 八五、第百 六五
東海 一八五五、三井 八〇、安田 一〇
三菱 一〇、川崎 三三〇、川崎千葉支店
三五〇、京都商工 一四一、浪速 二九〇
北濱 八二、近江 五、住友 一三〇、山
口 一三五、左右田 八四、新潟 五、
第二前橋支店 五、第六十八奈良支店 四
〇、愛知 六〇、明治 三〇、名古屋 六〇
第十 六、第百三十三 二〇、第十六 五
〇、第七十七 一〇八、安田秋田支店 一
二、第十二金澤支店 一〇〇、第二十二
七〇、第三十四德島支店 三五、第百十四
一一四

●拓殖會社法の說明

農商工部商工局は東洋拓殖株式會社設立の趣旨及び其の事業等を韓民に周知せしむるため[illegible]を加へたる小冊子約五千部を印刷して全國に配付することゝせり

●未墾地利用の許可

十月中に國有未墾地利用法に依り貸與の許可を受けたるもの左の如し

△忠清南道温陽郡北面龍頭里荒蕪地百三十四町五反二畝二十四步七合（平安北道寧邊康弘範）△慶尚南道蔚山郡下府面上坊洞左頭坪原野十五町七反五畝五步（慶尚南道蔚山郡相山助市）△同道密陽郡上西面初洞面星岩里草生地六十六町五畝二十一步五合（同道同郡朴龍鉉）△京畿道仁川府烏東面陰實坪干潟三十一町五反三畝十九步（京城本町高木隆亮）△平安北道博川郡德安面中與里干潟七十七町四反一畝二十五步五合（京城西部劉重烈）△慶尚北道延日郡北面上島洞邑内面孟子洞大嶺洞草生地六十五町五反六畝十九步（釜山西町大塚昇次郎）△慶尚南道密陽郡府内面[illegible]谷里末吾員荒蕪地三十四町三反四畝十步（慶尚南道密陽鈴木修）△咸鏡南道洪原郡上新翼面河陽里東便草生地二町三反二十七步五合（咸鏡北道洪原縣鄭煥奎）△慶尚南道咸安郡西面大峙洞奈内洞草生地三十七町四反九畝二十二步（慶尚南道東萊鄭箕斗）京畿道南陽郡新里面洪法洞坪干潟三十二町六反二畝十三步（平安北道渭原郡吉泰弘外二名）△京畿道仁川府多所面海邊水飲猿島厚町六町三反二畝二十二步（慶尚北道大邱武川盛次）△忠清南道庇仁郡一方面檜山里冠洞書老長津干潟二十九町三反七畝二十一步（忠清南道庇仁郡韓五鉉）△同道同郡西面酒巷里月頂里干潟十七町九反一畝六步五合（同道同郡韓五鉉）

●獨米の學校政策

米國は清國の福利增進を計る名の下に一大專門學校を設立せんと欲し既に大体の設計をも終りたる由なるが獨逸も亦之に倣ひ米國以上の大規模を以て之を山東省に設立せんとしつゝあり獨り本邦に於ては政府に何等の計畫なきより早稻田大學に於て北清地方に其分校を設けんかとの議もあれど同校は目下理、工、醫科等の擴張計畫中なれば到底分校に十分の力を致す能はざる事情あり爲めに未だ確定議さならざる次第也と

●兩班の田舍落

寒氣の加はるに從ひ煖突を炊く度數を多くする爲め薪の代價に究する兩班も大分ある樣子にて此等の兩班は京城生活の困難なる爲に地方に移住を企つるも少なからず其他遊食の徒は漬物さへ出來ざれば此等も續々地方に移住すべしと云ふ

●韓國經濟協會

經濟協會にては其評議委員會を來る九日午後五時より日本人俱樂部に於て開催する由なり

●南大門工事落成

南大門改新工事落成式は一昨日午後四時より同門樓上に於て開催せらる始めに坂出度支部技師より工事報告及同門の歷史に就て一場の談話あり次に三浦理事官より工事委員としての報告及び將來の希望に就て談話あり了りて柳委員の挨拶あり、式後來賓一同は立食の饗應を受け歡を盡して歸途に就きたるは夕景近き頃なりしと云ふ尚當日の來賓は曾禰副統監長谷川大將各日韓官吏實業家民長新聞記者等百餘名なりし

●[illegible]

[illegible]隊中尉巳下六名は十月三十日成川東南方約十一里なる新倉の南方にて約四十の賊を潰走せしめ六を殪し銃器十二を鹵獲す△平安南道安川東北方价川分遣所憲兵一補助員二は十一月一日价川東方北倉の東南約五里半にて約六十を討ち其二を殪し銃二を鹵獲す△平安北道寧邊東方藥水洞分遣所の憲兵下士一兵二補助員五は十月三十一日藥水洞東南約七里半にて約五十の賊を討ち其九を殪し銃三を鹵獲す

●日本巡査被害に就て

過日全羅北道にて日本巡査七名賊徒の爲め殺害せられたる事に付聞く處によれば右は日本巡査一名日本銀行員一名韓人財務署主事の五名にして旅行中不意に興陽に於て賊徒の襲擊を受け殺害せられたるものにして我順天守備隊は直に下士以下十名の討伐隊を派遣して之を麗水郡遠浦に追及して其五十八名を殪し銃器二十四軍刀一雜品其他若干鹵獲せ

●仁川民團委員會

仁川共同墓地通路に關する委員會は豫報の如く昨日午前十時より仁川民團役所樓上に於て開きたるが百聞一見に如かざるを以て稻田、八田、加藤、奥田の諸議員は理事者富田民長及元木同民團技師と共に實地見分の爲共同墓地に出張したるが其の結果は次號に報ずべし

●仁川太沽間終航

仁川太沽間の航路は郵船會社の北清命令航路高砂丸、酒田丸の二隻が航行し居れるが太沽は本月末より結氷するを以て同社にては來る十九日仁川出帆の酒田丸を以て終航とする筈なりと

●山東丸の入港

日本郵船會社の北清航路船山東丸は本日仁川に入港し明日大連に向ふ筈なりと

●築港準備調査

仁川築港の準備調査として同地建築所出張所に於いては數日前より港灣の潮流を調査し居れるが同調査の模樣を聞くに今回の調査は重に外港に於ける潮流の關係を精査するものにして同出張所員舒及圖平艀に乘じて終日測量し居れるが港灣改良に最も深き關係を有する引潮揚潮の方向は既に其の過半を調査し了りたる由にて其他種々なる關係等の調査を終了するは來月なるべしと云ふ

●埋築工事の請負入札

仁川停車場より仁川稅關新埋築地に新設せらるべき上屋倉庫に通ずる鐵道敷設の敷地は同地陸軍運輸部前の海面を埋築することに決定し居ることは既記の如くなるが韓國建築所にては來る二十日請負入札をなし二十五日頃より起工する筈なりといふ

●滊船運賃値上の紛議

昨年末仁川に於ける大阪商船、日本郵船、尼ヶ崎滊船の三社が合同して運賃値上をなしたる際荷主側の意見と衝突し會社と荷主間に於いて紛擾をなしたる結果議に荷主は三社以外の船に積荷せざることを誓ひ船會社は積荷の額に應して五分乃至一割二分の割戻をなすことゝして今日まで履行し居たるが右契約期限は本月十四日を以て滿期となる由なるが後期の契約に就いては双方共從前の如き契約を希望し居れるが何れ兩者總會の上決すべしと

●憲兵下士の進級

駐韓憲兵隊本部にては三日附を以て憲兵伍長より軍曹に四十五名進級し同上等兵より伍長に七名進級せり

●第三幼々會親懇會

學部及び内部關係の日本人職員並に同家族を以て組織せられたる幼々會は明八日午前十時より龍山八景園に於て其の第三回を開催す其の順序左の如し

一午前十時幹事開會の挨拶次回役員の指名報告
一會長の演說
一摸擬店開始
一餘興 寶探 手踊 薩摩琵琶
一正午中餐 義太夫 尺八琴合奏 落語
一二輪加
一午後四時散會

尙同會は會員家族共百二十餘名にして春秋二期に開會し新年には會長俵次官會員一同を招待するの設をなせりと

●度支部次官の饗宴

荒井度支部次官は來韓中の妻木工學博士奥技師の慰勞に兼ね多年同部財源調査局に在勤して烟草に關する調査に從事し精通の聞へありし岡田技師今回病氣のため辭職歸朝するに付き送別の宴を昨夜官邸に開催せり

●關稅總長の晚餐會

永濱關稅總長は平壤方面の視察を終へて此程歸京せる妻木工學博士の爲め去る五日度支部荒井次官及建築所高等官を其官邸に招き晚餐會を催せりと云ふ

●熙川の寒氣

平安北道熙川地方は十月二十日頃より溜水凍結し又十一月二日より附近の高山降雪ありとの電報其筋に達せり

●鶴岡書記官の歸朝

日本に出張中なる鶴岡農商工部書記官は目下歸任の途に在りて日本各地の商工業視察中なるが本月十日頃歸任する筈なり

公人私人

●日戶勝郞氏 過日來重症に罹られ臥床中なれば同氏發行の京城評論第二號は定期の日より少しく後るゝことゝなるべし

▲中江豐（五十一聯隊中尉） 一昨日入京浦尾旅館

▲野中耐（元山稅關長） 一昨日入京不知火旅館

▲竹川新太郎（同主事） 同上

▲松平乘承（子爵） 一昨日東京へ向け出發

▲田上荒太郎（三等軍醫） 一昨日釜山へ向け出發

●近事片々

▲伊藤公鳳輦に供奉する爲に歸任亦も延期して廿四五日頃なるべしと能く延る事也

▲韓人曰く伊藤公の歸任荏苒延遇するは事實統監を辭する心意ならんと王室の臆測[illegible]

▲面も本年は京城にて越年する杯はチト怪まれる兎角明瞭を欠くは甚だ宜しからず

▲一方より見れば桂侯と會見して統監府の豫算に對して入念敬宮へる杯の事もあり

▲由來公の性格には甚だ矛盾ありて常に胸中に戰ふ之が爲に世人を迷はすことある也

▲伊藤公歸任に就ては韓國民族に政客等は多大の希望を有し居るが或は越年ならん

▲今回の歸任に就ては漢城政界の面目を一新する位にヨボ共は考へ居るも是は怪し

▲惟ふに伊公歸任するも大なる變動はなかるべし或は現狀維持となり畢るに至らん

▲東京は鳳輦供奉の爲に諸星西に飛び一寸の間は政界の中心西都近傍に集まらん乎

▲山縣公も既に西下して無隣庵に入り伊藤公亦西都に向はん其他綺々西下せん也

▲香港の暴動益々激甚在留日本人の如き武裝しつゝ眠ると云ふ支那暴民にも困る也

▲此暴徒が背後に黑幕ありて一意煽動すると云ふに至りては甚だ憎むべし懲戒せよ

▲南清暴動には革命黨も無頼の漢人も煽動せられて之に合するもあり全く混沌たり

▲妙なる氣運の此間に挾まる爲に罪もなき日本人に近禍を及ぼすが如きは甚迷惑也

▲清使唐紹儀君東京を退く渠は得意の外交により思の儘に日本外交家を折衝せり

▲其退くや恰も凱歌を奏せるが如き得意の色なるに至ては何となく我は嬉しからず

▲雖宜懷去り唐紹儀去りて清國との外交に多少面目を革むるの所ありしか聞かほし

▲伊集院公使北京にありて大に盡瘁する所あらむされど更に大頭株の政治家を要す

▲太郎宰相が思ひ切て大隈伯を起して北京に遊はしむる策を取らば甚だ面白からん

▲大隈伯にして起たざれば伊藤公にても山縣公にても可なり清國には此策必要なり

▲止むを得ずんば山本權兵衛を起すも可也彼は見掛以上に外交の手腕を有する人也

▲日本にては武人武一方ならず專門外交よりも外交に長する人あり撰拔を愼むべし

胸三寸（二）

去月三十一日午後九時頃二名の車夫は夫婦らしき若き男女を乘せ韋駄天走りに本町一丁目理事廳の前を横切り南大門通りを一直線に停車場に至りて梶棒を下ろせしが車夫は男女が日本行の切符を買ひ求め手荷物を係りに托すなどさま〲の世話をなし離れ女が紙入れより取り出す何程かの酒代に二三度額づきて立ち歸る途すがら一人の色の淺黒い方が

「オイ兄弟、旭町一丁目から二臺で八圓だアね豪いな……いから今の酒代が五圓よ、近頃の不景氣に那んなれ客許りあつて呉れりや金く嬉しいな……」

と左の手で梶棒を支へながら右の手で汗をふき〱話し掛くれば兄弟と呼ばれた方は

「ソレはソウと今のれ客は何んだらうナ月給取りにしちやア氣前が宜いし、商賣人とも見れず、兎も角仕合な身の上らしいが何んでも女の方は素人ぢやネーナ……」

と話し行く中にも二人の車夫はいつしか影を沒し唯空車の音のみ淋しくぞ聞ゆるなり

却説話し變はつて男女兩人は靜岡行きの切符を求め夜汽車の旅の一際淋しく殊更乘人少き二等室は森閑として發火薄暗く人の話し聲とては絶れてなく唯レールを轢る車輪の音のみぞ聞ふるのみなるが却つて男女の二人は此の人眼少なき旅路を幸ひとし情話喃々盡きも盡くしもせず鴛鴦の中睦まじきも斯くやと許り思ばるゝ程なるが軈て汽車が永登浦に停車するや女は窓を開きてビールにすしを買ひ求め直ぐさま鞄の中よりアルミニユームのコップを取り出して男にビールをば差しながら

「モー貴郎那の方は何んとしませうね妾し心配で堪らないわ……」

とさも心配さうに男の膝に手を當て其の顔を覗き込めば男は容子柄にも似合はず下司な何ぐ顔にて

「心配するない、クズ〱ぬかしやあバラス許りよ」

とグビとビールを一口に呑み乾し金口の烟草を咬へてマッチを摺りたるなり

●剣呑悪心を起す

明治町三丁目中村ツヤ方寄留前田岩吉といふは大工職を稼業とし日々細き烟を立て居るものなるが同人は性來律義者にて他に道樂なく稼ぐ一方なるにも拘はらず一年三百六十五日の中ゝ樂なる日とては只の一日もなく常に貧に苦しめられ冬が來たからとて衣物一枚買へる所ではなく時に以三度の食事さへも差し支ふるといふ意久地なさ女房よりも愛想を盡かされ居る程なるが同人は近頃に至りつく〲朝鮮が厭になり知らぬ他國で苦勞するよりはイッソのこと國元へ立ち歸り百姓でも仕て暮さんものをと決心せしが併し貯への金とては一文も無く從つて旅費の出端もなきより差し當り[illegible]ることも出來ず如何はせんと思案に插き暮れ居る中フト良からぬ考へを起し一番斯うして金を調達せんものをと小人の悪心から他人の金を詐取せんとして終に露現し縲紲の辱を受くる身とはなりたるぞ是非なき次第なり

サテ同人は同業者二宮庄藏內縁の妻長谷川町二丁目清水リンといふ女が小金を持ち居ることを聞てより耳にし居りしを奇貨とし一昨日午前八時頃リン方に赴きいろ〱世間話しを爲し居りしが內心は隙間もあらば抽斗を探がして金を竊取せんものをと窺ひ居りしも[illegible]其の場を立ち去らざるより已むなく其の場は一先づ家に立ち歸り軈て再び十一時頃リン方に至りしに其の際リンは郵便局の通帳と十五圓の現金とを手にして火鉢の前に坐り居り今から郵便局に金を預けに行かんとする所なりとの事に岩吉は心竊かに打ち喜びリンに向つていふやう自分は近頃大工を廢め郵便局の雇となり毎日出勤し居れるが今日は幸ひ此れより郵便局に出勤する所なれば其の金をば自分が持ち行きて預けやるべしとの言葉なれどリンは他に所用もあれば御心切は有難きも出勤いたすならばそこ迄れ伴いたすべしと間もなく二人は家を立ち出でたるが軈て二人は郵便局迄來りしに又々岩吉はリンに向ひ自分が其の金を預けやるべければ現金と通帳とを出さるゝやうといひしにリンはウッカリ其の手に乘り何氣なく現金を通帳の中にはさんで岩吉に與へたりしかば岩吉は得たり賢しと思ひ右の十五圓を懷に押し込み二十五圓を通帳より引き出し何喰はぬ顔して待たせ置きたるリンに件の通帳を返却し立ち去りたるがリンは其の後二三ヶ所の用を辨じて家に歸り女心の萬一のこともありはせまきものをと包みの中の通帳を檢め見しに這は有らうことか有るまいことか四十圓といふ大金が明かに引き出され居るにぞリンは大に驚き直ちに其の旨を南部署に訴へ出でしかば巡査は早速岩吉方に赴きしが之より先き岩吉はそれとは知らずに之さへあらば大願成就まづ之れで國へ歸れる事かなどホク〱喜び居る所を御用の聲と共に取り押へられたり

●落花流水

壽町一丁目に結髪屋とかいふ刺繍店あり常に三四人の職人たちがさも忙しさうに仕事を爲し居るさまを見ても店の繁昌さこそ思ひやらるゝ中にも取り分け此の家の主人といふが腕が達者で商賣上手尚更に持つて生れた律義一遍の性質は稼いで溜めて追つては故郷に錦を飾らうさもいふ特勝な心掛け從つて此れ迄も道樂とては只の一度仕たこともなく殆んど女の肌は知らぬといふ商賣柄の意氣にも似ず珍らしい男なるがサテ此の珍らしい物堅い働く一方の頼母しい所を見拔いて斯うと言ひ寄つた女はツと近所の若後家なるが男も幸ひ獨の身の良縁もあらば妻を貰ひ受けんと思ひ居りし矢先きなりしかば早速爰に情約成立し兩三日以前互に媒妁人を立て晴れて三々九度の杯を酌み交はしたりとは目出度し〱

●本日の日曜

天長の佳節も過ぎ例年ならば寒氣頓に加はり人は外套の襟立てゝ襟卷なそしてさも寒さうに行き來する頃なるに本年は近來になく暖かく加へて打ちつゞく小春日和の麗らかさは却々に霜月の時節とは思はれじさるにても本日の日曜は如何にして一日を消すべき茸狩も晩く栗拾ひも遲れたれば[illegible]りに一日の清興を恣にするも趣味深かるべし殊に菊花は今が盛りにて大韓醫院附近の京城植物園並に新町の如きは見頃にて今日の日曜を過ぐれば盛りの眺めを見逃すにいたるべし夜間は歌舞伎座の新劇壽座の舊劇何れも車輪にて演じ居れば是れ又婦人小供連の見物に適當なるべし

●四人を種の詐偽

西署桃洞百九十統十二戸金興善(五六)の養子共鳳山なるものが去る八月一日窃盜犯人として禁錮さるゝや此れを種に南部山林洞奉在河なるものが鳳山の父興善より金圓を騙し取らん企にてマンマと鳳山の放免運動費なりと稱し興善より數度に亘りて十數圓を詐取し其後姿を晦まし行衛不明となりし處一昨日在河が明治町一丁目岡重次郎方に潜伏し居る處を銅峴分署の手に押へられたり

●馬鹿女房

南部大山林洞韓化善の妻洪姓女なるものは化善との間に今年八歳になる小兒さへある仲にも係はらず近頃若返りて元の娘時代となつたものか不心得にも隣家蔡菱居の雇人李得根なる若者と手に手をとり一週間斗り以前家出し南大門內宋といふ者の家に潜伏し不義な樂を爲し居る處を化善よりの訴により一昨日銅峴分署の手にて取り押へられたり

●故なく喧嘩を買ふ

南部宮城內三十八統韓人車夫善某といふは一昨夕何所で飲んだか非常に酔ッ拂ひ見も知らぬ南部草洞劉定碩方に赴き喧嘩を買ひ居る所を巡回の巡査に認められ本署に引致されたり

●喧嘩と取持酒と金

一昨日午後四時頃の事南部蓼造山洞三十統十一戸金淳元(四二)と南部草洞柳皇俊(三五)なるものが皇俊方にて酒機嫌にて喧嘩を爲し居る折柄通りかゝりし巡廻巡査之を認めて取調たる處事實は淳元が前日皇俊より六十錢を借りたるを今日途中にて催促されたるより一圓紙幣を出して取りくれとて皇俊宅に赴きたる處何れも酒を吞み居りたることゝて一言二言爭論の結果斯る始末に及びたりと明り說諭さる

●韓人の窃盗

一昨日午後美洞派出所前を通りかゝりたる怪氣なるヨボあるより詰合の巡査直樣呼止めて取調たる處果して一個のオルガン入置時計及首卷一個をツルマキの下に匿し居りたるより一應本署に引致の上嚴重に訊問を試みたる處ヨボは終に包み切れず竹園町石原常五郎方より窃取して居る旨自白せり

●迷兒二件

櫻井町長野菊太郎の長男太郎(五つ)は一昨日午後四時半南大門通り三丁目にて迷ひ居る所を南大門通り村田源次郎氏が引連れ屆け出で菊太郎に引渡す又は南山町三丁目八番戸高橋源吾の長男武雄(四つ)は昨日午前十一時本町郵便本局前に迷ひ居る所を間もなく源吾に渡されたり

●西本願寺の說教

長谷川町西本願寺にては本日午後七時より開教師の說教ある由

●日の出町基督教會

同會にては左の如く說教ある由

午前九時日曜學校、午前十時禮拜說教、再觀妙味米澤牧師、午後七時傳道說教、趣味と生命

●メソヂスト教會の說教

本日午前十時及午後七時の兩回名古屋城內なる同教會にて左の如き說教あり

朝　神のたまもの　木原牧師
夕　吾人の渇望　同上

●京城簿記學校

壽町三丁目十七番戸に設立しある京城簿記學校は客月開校せしが昨今にては修業者日に增加し頗る盛大なり教授科目は商業簿記、官用簿記、農業簿記、工業簿記、家計簿記、會社簿記の七科目にして教授方法は一人毎に教授するを以て何時にても入學するを得べしと且つ一科目の修業期間は五十日位なりといふ因に教師は永年東京簿記學校に於て教鞭を執り居りし柳澤鹿之介氏なりといふ

(平)(民)(文)(庫)

▲京城で高尚にして色氣のない待合を開業したら乾度儲かる秘密の話し朋友の會合共同の娛樂等必ず千客萬來は請合だ(清趣渴望生)▲端唄の會が出來ましたな……結構僕の咽を聞かして見たいな十八番は忍ぶ酌みだ〱(不場仕込生)▲夢でに喇叭節の會を組織しては何うです(同生)▲新町大樹樓の三重咲は南大門外の運送屋の番頭さんに落籍された噂ですがチテ面妖な(狂動會員)▲郵便局の小包掛でも書留掛でも切手賣下げ掛でも今少し機敏に遣つて貰ひないな一人か二人の時ならさて措き混雜して居る時は悠々に待たされる(取引人)▲一般の投書者に告ぐ文章は簡單にそれから他人を中傷讒謗するやうな記事は嚴して下さい(係り)▲今度いぬのやといふ待合が出來ましたな待遇が丁寧で執拗なく總て安直なので此の旨天下の人民に告ぐ(青龍刀)▲京城に出歯紳士があるといふことを耳にしては居つたが實際です現に私しの妹が一昨晩永樂町二丁目の處で將に恥を受けんとしました何うか記者さん精探して下さい(永樂町三丁目傘屋の主人)▲ソレは氣の毒でしたな大に探偵員を派して精探します(係り)▲龍山座の革新派は守舊派見たやうです公平な眼を以て見て少しも革新の實はありません(龍山十五間道路)▲南大門通りは何故に發展せざるや道路は廣し停車場にも近い尚も京城の繁榮策を思ふものは同通りに家を構へよ(警鐘)▲松葉のシルコ中々うまいから小生は常に行つてたべる(大工の小僧)

（二）（第三種郵便物認可）明治四十一年十一月八日 京城新報（日曜日）第百五號

軍艦用燃料 無煙煉炭
●特色 火付善く火力耐久價格低廉
●用途 汽鑵、暖爐、竈用に適す
…●…
周防德山海軍省煉炭所東隣
谷口無煙煉炭工場
京城特約店 京城南大門通 電話六〇三番 巴商會
韓國一手販賣 京城太平町二丁目 神田組

落語

湯屋番（五）

三遊亭圓遊口演

若「大丈夫……先今日から八釜敷家の女房アの顔を見ないで落着ア真實に毎日小言計り聞てるのは嫌だ今日から湯屋へ奉公に行うと云ふ考へを起したんで運が向て來たんだ今日は運の開業式と來た乎人がジロ〱見て居るが乃公に運が向た丈に威が附たと見ねて人が羨しがつて居やがら先乃公が那處の湯屋へ往て亭主ン成ると女房が悦ぶねへ貴郎今日は好い御天氣だから谷中の方へでも運動に行うぢや有ませんか……アヽ出掛ませう私は女房孝行だから勢るねへ御召は何に爲ませうと來る……然々サウノー琥珀紬の鼠微塵の小袖に羽織は大縞紬の書生羽織に爲やうと云ふヨ、帯は何に爲ませうと云ふから紺献上が宜からうと云ふヨスルと女房が簞笥の抽斗から出し乍ら此帶は先の良人が大丸で二十圓で買たんですが先の良人にも能く似合ましたと云ふだらう（大聲）オイ先の亭主の事を云つちやア氣が不味いじやア無へか然んな帯なら御免蒙むりませう先の（一層聲を張揚て）に締させねへな人面白くもねへ……

巡査「コラ〱オイ何が先の亭主だ……エー往來を商聲を發して歩いては不可んヨ

若「此りやア恐れ入ました……考へへ逆上が乘りまして

巡「何が先の亭主だウムー

若「何うも御免被下まし……ハヽ、熱いたねへ獨り言云つて巡査に捕つて誠に何うも酷いもんでげすなア……其處で私の身裄が悉皆出來上つたと爲て女房が聞ねへ良人時計は何品に爲ませう。アノ頃日天賞堂で六十五圓で買た無雙の銀側ア出して御呉れなんてんでア、ー痛い……イヤ〱電話の柱へ突當つた水撒が笑つて居やアがら、何うも失禮……水撒に誤らなくつたつて好いや、オヤ何處だと思つたら丸の內へ這入つちまつた湯屋ア通り越て仕舞つた跡へ帰らなくつちやア……女房も優しいから自分が着る着物だつて一人で勝手なのは着て行ないねへ一々私に相談爲るだらう、鳥渡妾は何を着て往きませう、然うさなア上着は京縮緬で下着は更紗が宜からう、帯は何に爲ませう、然うサ其鉄色繻子に唐繻子の腹合せが宜からう、アラ少とも貴方と妾の心持は違ひませんヨ、當然へヨ似た物夫婦だもの、アラ嬉しい事……御小遣は何で持て行きませう然うサ文久錢で三拾圓計り……重からうなア矢張紙幣に銀貨で持てきなつてへ樣な事を云つて是から合乘で町內を通ると近所の娘ッ子が羨しがるだらう湯屋の御內儀は素敵に仕合せもんだヨ那んな好い男を御亭主に亦持て而山敷い事ねへッ……

親「若棟那未だ家の前を歩いてるんですか

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金五拾錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月金拾錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一圓四十錢▲特別廣告五號活字十九字詰一行金二十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城西署西小門通 京城新報社 電話六六三番